

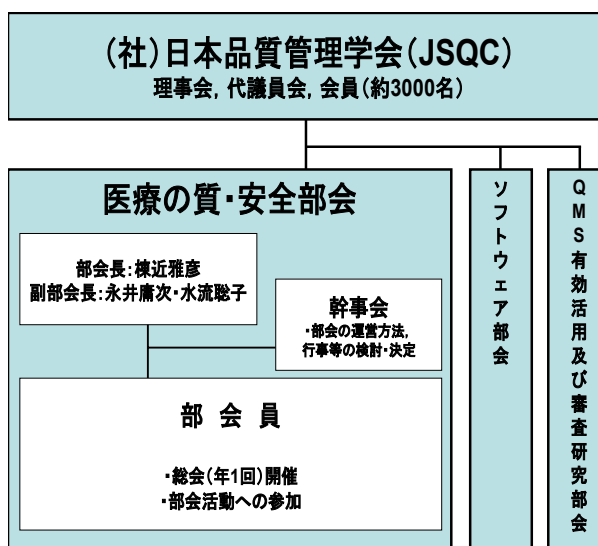
医療の質・安全部会の概要

1. 医療の質・安全部会とは

医療の質・安全の向上がより大きな社会的課題となってきた昨今、「医学系と工学系とが共同で医療の質・安全に関する課題に取り組むことは大変有意義である」との認識が高まり、共同研究の成果が少しずつ出始めてきています。

しかし、まだ医療の質マネジメントに関しては、課題が山積みといわざるを得ない状況です。

そこで、より多くの人々が今後一層この分野の研究の重要性を認識し、現状を打破するためには、医療の質・安全を主要な研究領域とした医学系、工学系の融合の場が不可欠であるとの理解のもと、2005年9月、(社)日本品質管理学会(以下、JSQCという)(<http://jsqc.i-juse.co.jp/>)内に「医療の質・安全部会」[会長：棟近雅彦(早稲田大学理工学術院教授)、副会長：永井庸次(日立製作所水戸総合病院院長)及び水流聡子(東京大学大学院工学系研究科助教授)]が設立されました。



2. 主な活動内容

当部会では、医療、介護、保健にかかわる領域(以下、総称して医療という)を研究対象分野としています。また、当部会の目標は、医療の質・安全のためのマネジメント技法の開発、特に医療における質マネジメントシステム(QMS)の確立を目指すことにあります。

具体的には主に次のような活動を進めます。

- ・研究活動(ワークショップ、シンポジウムの開催や研究会活動など)及び研究成果の公開
- ・教育・啓蒙活動

当面は、患者状態適応型パス、ISO9001に基づく医療版QMSの開発、精緻化を研究の中心に据え、例えば患者状態適応型パスについて厚生労働科学研究事業の「医療安全と質を保証する患者状態適応型パス統合化システム開発研究」などのように、当部会の研究テーマに関連する既存の取組みと連携して研究活動(ワークショップ等の開催)を進める予定です。また、教育・啓蒙活動の一環として、「医療のための質マネジメント基礎講座」を開講することになっています。